



Nestlé Good food, Good life

2026年4月21日

ネスレ日本株式会社

## ネスレ日本・JR 貨物グループ、定期貨物鉄道輸送新ルートの運用を開始 茨城県・土浦駅を起点に、東北方面へ「ネスカフェ ボトルコーヒー」を輸送

ネスレ日本株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役 社長 兼 CEO:深谷 龍彦、以下「ネスレ日本」)は、日本貨物鉄道株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 兼 社長執行役員:犬飼 新)ならびに、そのグループ会社である全国通運株式会社(以下、あわせて「JR 貨物グループ」)と連携し、土浦駅(茨城県土浦市)を起点に、東北方面へ「ネスカフェ ボトルコーヒー」を輸送する新ルートの運用を、2026年4月20日(月)から開始しました。



(左から)全国通運株式会社 取締役 営業本部 本部長 松尾 直哉  
ネスレ日本株式会社 常務執行役員 サプライ・チェーン・マネジメント本部長 オリビエ モントゥ  
日本貨物鉄道株式会社 取締役兼常務執行役員 関東支社長 篠部 武嗣

土浦駅(茨城県土浦市)で貨物コンテナを積み込む様子

ネスレ日本は、環境への配慮をバリューチェーン全体で実践しています。特に物流分野では、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量削減に向けて、トラック輸送から貨物鉄道輸送や船舶輸送へ切り替える「モーダルシフト」を、長年にわたり推進してきました。2023年9月には、JR 貨物グループとトラック輸送から貨物鉄道輸送への移行を進める「持続可能な物流構築へのパートナーシップ」を締結し、2024年2月より貨物鉄道輸送の活用を段階的に拡大しています(※参考資料)。

パートナーシップをもとにした取り組み開始から3年目を迎え、今回運用を開始する新ルートでは、ネスレ日本霞ヶ浦工場(茨城県稲敷市)で製造した「ネスカフェ ボトルコーヒー」を東北の物流拠点へ輸送する際、JR 貨物の貨物鉄道コンテナを利用し、トラック輸送の一部を貨物鉄道輸送へ切り替えます。これにより、既存の取り組みとあわせ、年間約7,500台分(※1)のトラック輸送削減につながることで、年間の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を約1,300トン削減できると見込んでいます。(※1)10トントラックでの換算

### <新ルート概要>

運用開始日: 2026年4月20日(月)  
輸送頻度: 5回/週  
輸送製品: 「ネスカフェ ボトルコーヒー」  
輸送量/日: 最大40トン(需要に応じ、15トンから40トンの間で変動)  
輸送区間:

【トラック輸送】 ネスレ日本 霞ヶ浦工場(茨城県稲敷市) → 土浦駅(茨城県土浦市)

【貨物鉄道輸送】 <繁忙期(4月~8月)>

土浦駅(茨城県土浦市) → 東青森駅(青森県青森市) 約680kmの長距離帯

<通常期(9月~3月)>

土浦駅(茨城県土浦市) → 仙台貨物ターミナル駅(宮城県仙台市) 約330kmの中距離帯

【トラック輸送】 東青森駅(青森県青森市)または仙台貨物ターミナル駅(宮城県仙台市) → 東北地方の納品先

ネスレ日本とJR 貨物グループは、今後も段階的に対象品目と地域の拡大に取り組み、トラックドライバーの負担軽減や、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の削減に貢献していきます。



土浦駅(茨城県土浦市)で積み込まれた貨物コンテナ



貨物コンテナを載せたトラックが  
ネスレ日本 霞ヶ浦工場(茨城県稲敷市)を出発する様子

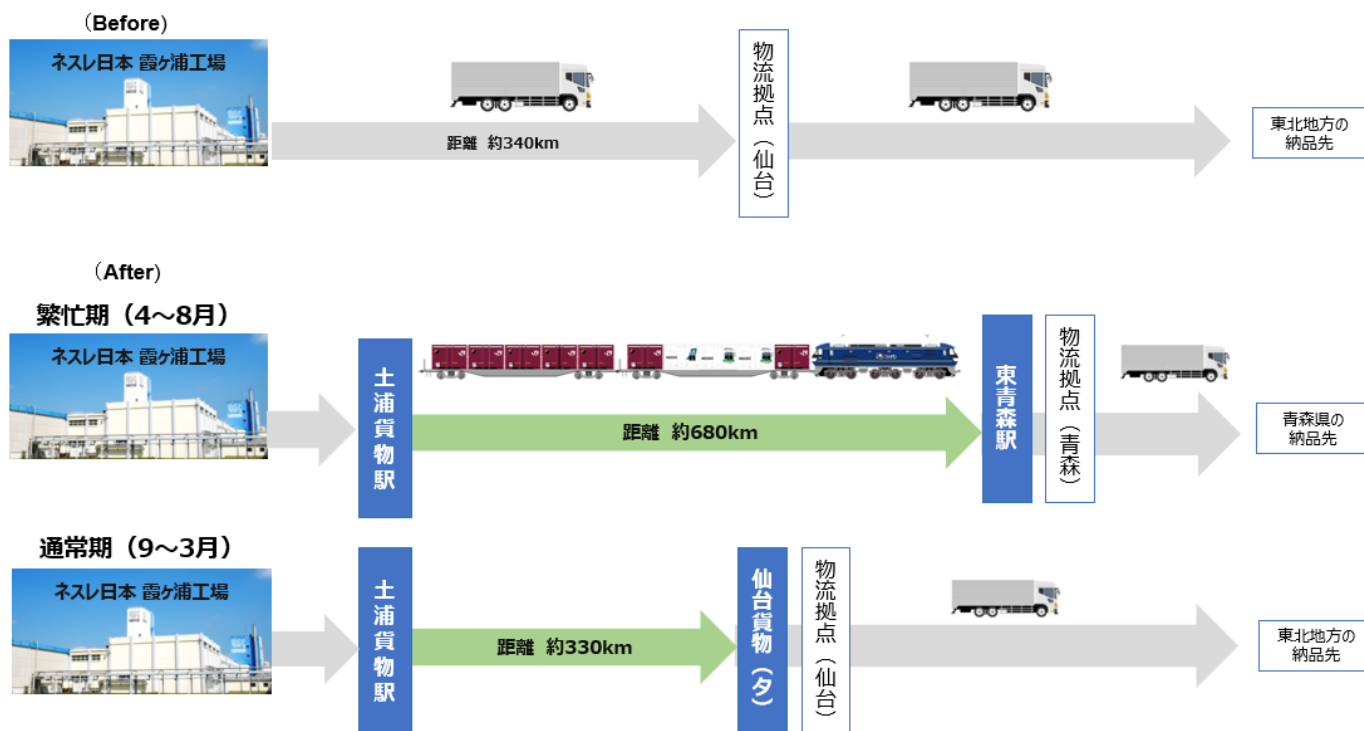


「ネスカフェ エクセラ ボトルコーヒー」



「ネスカフェ ボトルコーヒー」  
左:「ネスカフェ エクセラ ボトルコーヒー」  
右:「ネスカフェ アイスブレンド ボトルコーヒー」

<輸送ルートイメージ図>



## 参考資料

### ■ネスレ日本について

ネスレ日本は、スイスに本社を置く世界最大の総合食品飲料企業ネスレの日本法人で、1913年(大正2年)に創業しました。ネスレは、「食と飲料の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます」を存在意義(パーパス)として掲げ、安全で、美味しく、環境にも配慮された製品やサービスを皆さまにお届けできるよう、今後も努めていきます。

ネスレ日本について: <https://www.nestle.co.jp/>

### <「ネスカフェ ボトルコーヒー」について>

12年連続売上 No.1(※2)の「ネスカフェ ボトルコーヒー」は、豊かな香りとすっきりとした後味が特長の「ネスカフェ エクセラ」と、アイスコーヒーに適した味わいを追求した「ネスカフェ アイスブレンド」の2ブランドを展開しています。また、2026年3月からはリサイクル PET 素材 100%のボトルを採用した製品の出荷を開始し、おいしさや手軽さに加え、環境に配慮した製品づくりを進めています。

(※2) インテージ SRI+ 501ml 以上 ペットボトルコーヒー カテゴリー 2013年10月～2025年9月金額シェア

### ■「モーダルシフト」とは

輸送の“様式”(モード)を“転換する”(シフト)意味の2語を組み合わせた言葉で、トラックなどの車両輸送と比較して環境負荷が少なく、大量輸送が可能な貨物鉄道や船舶などに輸送を切り替えることを指します。二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量において、貨物鉄道輸送はトラック輸送の約11分の1、船舶輸送の約2分の1(※国土交通省ウェブサイトより)とされており、「モーダルシフト」の推進は環境負荷の低減が期待できます。

### ■ネスレ日本・JR 貨物グループによる「持続可能な物流構築へのパートナーシップ」について

ネスレ日本と JR 貨物グループは、トラック輸送から貨物鉄道輸送への移行を進め、持続可能な物流体制の構築を目指す「持続可能な物流構築へのパートナーシップ」を2023年9月に締結しました。本パートナーシップのもと、両社は段階的に取り組みを拡大しています。

2023年9月4日(月)発行のプレスリリース: パートナーシップの締結

[https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20230904\\_nestle](https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20230904_nestle)

2024年2月21日(木)発行のプレスリリース: 静岡県から関西方面への中距離帯での定期貨物輸送を開始

[https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20240221\\_nestle](https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20240221_nestle)

2025年3月13日(木)発行のプレスリリース:

静岡県から関西方面への中距離帯での定期貨物輸送を増便、トラック併用の中国・四国方面への新ルート運用を開始

[https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20250313\\_nestle](https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20250313_nestle)